



上/敷地西側に近接するJR成田線。6カ月におよぶJRとの協議で安全対策を講じた。所長の「語りかけ」による指導のもと、安全な施工を徹底した。
 中/構台を設置し、狭小な条件下で施工手順の工夫を凝らしながら工事が進められた。(写真提供:五洋建設(株))
 下/隣接するB街区(手前の建物)と人通りの多い駅前広場。施工には十分な配慮が必要とされた。



駅前の厳しい条件下での施工

全体計画としては、JR成田駅東口前に駅前広場、バスやタクシー乗り場、さらに団体客用のバス停車スペースが設けられたロータリーと、それに隣接する形で再開発ビルが計画されている。再開発ビルはA街区とB街区に分けられ、二敷地の構成となっている。「B街区の建物が併行して建設されることになり、弊社が担当しているA街区の仮設計画には大変苦慮しました」と五洋建設(株)の岩佐健司所長が語ってくれた。確かに配置図を見ると、建物が近接した計画となっている。

取材当日、B街区の商業施設はすでに完成し、オープンしていた。傍目には一つの建物のようにも見える。「A街区は、三棟で構成されます。」

A一棟は地下一階、地上十五階建てでホールを内包する商業及び住居施設、A二棟は地下一階、地上三階建ての商業施設、駐車場棟は地下一階、地上六階建ての駐車場になります」と同席していただいた熊本健工事主任が丁寧に答えてくれた。

新たな試みが貴重な経験値となる

A一棟はSRC造、A二棟はRC造、駐車場棟はS造と、すべての建物で構造形式が異なっている。躯体建設の工程調整が難しいように思えるが、田中幸仁副所長は「三種の構造形式を一つの現場で経験できること、また困難な条件の中、仮設計画を立案し、実行することを経験できたことは、若手職員にとっては非常に勉強になっていると思います」と語る。敷地北

側に位置するA二棟は、すでに施工が完了している。「B街区着工前に、A二棟を上棟させました。B街区の工事が始まった後では、敷地の大きさに余裕がなく、工事が非常に困難になるからです」。さらに、前面道路とJR側の敷地では、高低差が五メートル以上あったため、B街区との境界部分を先行して根切り、アースアンカーを併用し躯体を兼ねた山留め工事を行っている。A一棟の杭工事はその後に行われている。も

工事概要	
発注者	成田市
施工者	五洋建設株式会社
工期	平成24年12月～平成27年2月
用途	共同住宅、店舗、公益施設、駐車場
敷地面積	4,314㎡
延床面積	25,726㎡
構造	SRC造、RC造、S造
最高高さ	65m



成田市が施行者として進める、住居・店舗・公益施設が混在する大規模市街地再開発。上部のシート、うなりくん(成田市)とミスターペンタ(五洋建設)のコラボレーションが、市・地域との良好な信頼関係を構築できている現場であることを物語る。



大事なことは話すのではなく語りかけること

JR成田駅東口再開発ビルA棟建設工事

成田国際空港が一九七八年に開港して以来、空の玄関口としてにぎわってきたJR成田駅。ここは、成田山新勝寺、通称「成田山」や京成成田駅にもほど近い立地だ。駅前広場や道路交通機能の強化、中心市街地の土地の高度利用のため、成田市は近隣地域と連携した安全で快適な都市環境の創出を目指し、二〇〇六年、「成田市計画事業JR成田駅東口第二種市街地再開発事業」に着手した。その中核を担う施設の建設現場を訪ねた。



つとも大きな決断だったのは、駐車場棟の地下躯体までを完成させて、その後地上二階までの構台をセットしたことだという。敷地に余裕がないため、三棟同時に工事を進めると、工事車両の動線、タワークレーンの設置場所、運ばれてきた部材の荷卸しや保管場所が確保できなかった。しかし、構台を設置したことにより、クローラークレーンを配置することが可能になった。クローラークレーンのすぐ横のスペースでは、わずかなスペースを利用して、「地組み」を実践した。これはSRC造における鉄骨建て方の手法

左/明るい自然光が入るホール前のホワイエ。天井には星座の配置に倣った照明が設置されており、昼夜で異なる空間を演出する。
右/300席を収容するホール。現場でのヤマハ(株)との綿密な打合せと調整により音響環境が整えられる。



いたということだった。同席していた田中副所長と熊本工事主任が大きな声で笑いだす。責任を持って仕事をこなすこと、それを信頼して任せる所長の姿を通して、壮麗かつ健全な現場の空気を感じ取ることができた。

話すのではなく、語りかけること

岩佐所長は「絶対にあきらめない」という教訓を大切にしているそうだ。この言葉は、バスケットボールの神様といわれたマイケル・ジョーダンやマクドナルドの創業者であるレイ・クロックの格言としても有名な言葉だ。岩佐所長は工事主任だった当時、この現場と同様にとある駅前再開発の現場に従事していた折に、当時の所長に強い憧れを抱いたそうだ。「地域住民や地権者との接し方、多くの作業員を従える身として、懐の大きさ、家族のような優しさを感じました」。その姿は、優しさ、バイタリテイ、存在感、親近感といった想いが込められている五洋建設のマスコットキャラクター「ミスターペンタ」と重なる。岩佐所長は入社した当時から一日でも早く所長になることを目標にがんばってきたそうだ。事実、社内でも類を見ない若さで、これほど大きな現場を任される所長になった。そんな岩佐所長が現場で大切にしているのが「新規入場者教育」だ。通常は、若手職員が行うそうだが、この現場では岩佐所長自ら行っている。大切なことは「話すことではなく、語りか

で、鉄骨部材を搬入した後、地上で鉄筋の取付を行った後に鉄骨部材を組み上げていく手法だ。「この現場では、作業スペースが限られていたため、鉄骨搬入、配筋、建て方と流れ作業的に行いました。通常より時間がかかりましたが、事前に計画・検討・打合せを納得いくまで繰り返して行い、現場では鉄骨工、鉄筋工、クレーンオペレーターと担当職員が一体となって進められた結果、スムーズな建て方ができたように思います」と田中副所長は笑顔で語る。これにより、狭小敷地において、SRC造のA棟躯体を五階まで五カ月で、十五階まで十四カ月で完成させた。

所長としての役割

A棟には、三層吹き抜けのホールが計画されている。工事の様子を熊本工事主任が説明してくれた。「今回、ホールの遮音性能や騒音レベルについて音響性能目標値を満たすために何度も行われた実験・検証・検査に携わりながら工事を進め、また自らの考えも施工に反映できたこともあり、よい勉強になりました」。ホールの設計を統括するヤマハ(株)とのやり取りの中で、現場での仕様変更も多かったそうだ。図面を見てみると、すべての壁と床、天井は二重になっていた。ホールの床には十五階階のコンクリートが、躯体とは別に打設されており、躯体との間に縁を切るように五階階の隙間を介して、防

けること」なのだという。「思いをこめて語りかければ、みんな聞いてくれます。そして、責任と権限を明確にして、任せることで各々にやる気が芽生えます。これが質の高い建物を建築するために、もっとも重要なことです」。田中副所長と熊本工事主任が、首を縦に振って頷く様子を見たときに、これはインタビュではなく、まさに演説、という印象を受けた。こうした人々の下には、責任感の強い、優秀な人材が多く育って行くのだろうと思った瞬間だった。



新入社員と積極的にコミュニケーションをとる岩佐所長。「家族のように接する」姿が印象的だ。



五洋建設のマスコットキャラクターである「ミスターペンタ」。その容姿にはメッセージが込められており、岩佐所長が目指す姿と重なる。



役割を明確にして仕事を任せる。互いの信頼関係が安全で円滑な現場を実現する。左から岩佐所長、熊本工事主任、田中副所長。

振用ゴムが設置されていた。壁や天井も同様に、躯体からブラケットを出して下地材を受ける骨組みが取り付けられているが、その間には同様に防振用ゴムが取り付けられている。室内から天井を見ると、吸音板が市松模様には張られていた。「ホールの防音対策を非常に配慮した設計となっています。成田空港に近い敷地ですが、飛行機の騒音はまったく聞こえない地域で、住環境としても良好な場所です」と熊本工事主任は語る。

ここまで話を伺って、岩佐所長がほとんど話をしていないことをぜひお聞きすると、「私の仕事の進め方は役割を明確にして、各々に仕事を任せることです。我慢することが唯一の仕事です」。今日の取材も各々に役割が割り振られていて、岩佐所長は話すのを必死に我慢して



五洋建設株式会社 東京建築支店 成田駅再開発建築工事事務所 所長 岩佐健司 Kenji Iwasa

Q あなたがこの現場で発見したことは何ですか?

A 一日でも早く所長になる、という目標をかねた今、新たに三つの言葉「フィーリング、ファースト、ファミリー」を教訓として設定しました。つまり、自分の感覚を信じて現場を進めること、対応の迅速さ、そして社内・社外の人材に分け隔てなく家族のような思いで接することを意味します。この目標設定には、所長になれたことに甘んじることなく、以前の私のように所

長に憧れる若手の輩出、所長に任命してくれた会社への勤めを果たすことも含まれています。また、所長になった今感じることは、「ものづくりが好きだ」といった思いです。自分だから無事に竣工できたと思えるような建設に携わることも、今では目標の一つになっています。もちろん、今携わっているこの現場を無事に竣工し、クライアントに引き渡すことがもっとも重要な目標です。